

「古典学の再構築・第1回公開シンポジウム」プログラム

「古典学の再構築」では、平成10年12月27日(日)・12月28日(月)の両日、芝蘭会館(京都市左京区吉田牛の宮町)において第1回公開シンポジウムを開催した。80人余の人々が連日熱心に聴講し、時間を超過して議論が行われた。

ここにはそのプログラムを掲載する。講演要旨は、次ページ以下に特集した。

P R O G R A M

12月27日(日)

9:00 **特定領域研究「古典学の再構築」の発足にあたって**

中谷英明(領域代表)

9:25 **「古典諸学の歴史・現状・未来」(研究分野責任者による報告)**

日本学 : 木田章義

中国学 : 興膳 宏

インド学 : 江島恵教

西洋古典学 : 内山勝利

イスラム学 : 杉山正明

イスラエル学 : 関根清三

13:30 **基調講演と対論**

Classical Studies and Indology, Michael WITZEL (ハーヴァード大学)

: 対論者 江島恵教・丸井 浩

Classics in the West and in Japan, Elizabeth M. CRAIK (京都大学)

: 対論者 中務哲郎

古典研究とベクトル合成モデル 加藤周一(評論家)

: 対論者 興膳 宏

17:00 **「情報処理」班報告**

人文科学と情報処理 徳永宗雄(「情報処理」班代表)

特定領域「人文科学とコンピュータ」からの報告

及川昭文(「情報処理」班・特定領域研究「人文科学とコンピュータ」代表)

12月28日(月)

10:00 **基調講演**

古典学への期待 上山春平(京都大学名誉教授)

10:40 **パネルディスカッション**

古典学の再構築に向けて

上山春平(司会) + 研究分野責任者 + 中川久定(「近現代社会と古典」班代表)